

を調製せんとする際、両油のアニン点の関係を求めて、混合の安定性について述べる。

1-18. 脱硫剤の工業物理化学的研究 (15) 東村栄之助。リグニンスルホン酸の金属錯塩の脱硫剤としての効果を工業物理化学的に原料及び生成脱硫剤について研究した。

1-19. 新津原油中の天然酸化防止剤に依るセタン及びデカリンに対する酸化防止効果 (15) 永井雄三郎, ○山路巍。新津釜残油を硫酸処理したもの及び之を分子蒸溜した溜分が酸化防止剤としてどの様な効果を持つかをセタン及びデカリンについて調べた。

第 2 会場 9.00~10.40

電気, 音響, 応用物理

2-1. 導体分離にともなう放電現象 (分離放電) とその応用 (第 2 報) (15) ○岡崎三郎, 相原公一, 木下昭義。前回に引続き行つた分離放電による穿孔の実験 (6.5 MC) 及び更に高い周波数 (80 MC) における分離放電現象について報告する。

2-2. CR 発振器の特性について (10) 田宮潤, ○平松啓二。CR 発振器の安定度, 発振起減特性につき検討し, 振巾弁別器としての応用を示す。尙直線的連続可変周波数発振器特性を附記する。

2-3. 積算温度計 (15) 田宮潤。電子管増巾器及び電気一機械的増巾器と積算電力計とを組合した 2 種類のアナログ積分器を温度の長時間積分に応用した例を示す。

2-4. リレーで動作する自動平衡計器 (10) ○荒井昌昭, 遠山政佑。振巾弁別回路とリレーを組合せて, 自動平衡計器を駆動し大きなパワー・アンプなしで, 充分実用になるものが得られたので, 精度, 記録速度等について報告する。

2-5. 自己相関函数算出用リレー計算機 (15) 磯部孝, 相馬道男, 松村久夫, 井上太郎。時系列の 2 桁の数字の列を穿孔記録した紙テープを導入して自己相関函数, 積の積分等を求めるリレー計算機と附属装置, 応用例をのべる。

2-6. 穿孔パネル吸音構造について (10) 子安勝。多孔質吸音層の前に空隙をへだてて穿孔パネルをおいたときの吸音特性をパネル, 吸音層それぞれの特性から求める方法をのべる。

2-7. 音響材料の吸音特性を表す一方法について (10) 子安勝。吸音材料の特性を, その厚さや支持条件に無関係な一般的な量から表すために行つた実験と, 得られた 2, 3 の結果について述べる。

2-8. 発声時のレベルコントロールに就いて (15) 荒井昌昭。母音の全パワーと基音パワーを, 発声条件を変えて測定し, 発声者が主観的な判断によつて発声レベルを調節する場合, どんな量が一定におさえられているかを検討した。

13.00~15.50

応用物理, 流体力学

2-9. 試作自記気象計に就いて (10) ○河田三治, 広岡貫一。名古屋テレビ塔に試作自記気象計を取り付け颱風の記録を取つたものを報告する。

2-10. 新に試作された乱れ測定装置について (15) ○佐藤浩, 小橋安次郎, 井内松三郎, 山本一夫, 恩田善雄。熱線風速計と組合せて風洞の中の乱れを測定する為の電子管回路を新に試作したのでその詳細を報告する。

2-11. 非定常な層流境界層について (15) ○谷一郎, 福井四郎。定常な層流境界層がある時刻から変化して行く場合の一例として, 外側の流れの変化に伴う剥離点の変化を計算する。

2-12. 単一の粗さによる境界層の遷移について (15) ○谷一郎, 井内松三郎, 山本一夫。単一の粗さ (針金) による境界層の遷移を観察し, 遷移レイノルズ数と相対粗さの関係が気流の乱れならびに圧力勾配にほぼ無関係であることを示す。

2-13. 圧力上昇を伴う乱流境界層について (15) 谷一郎, ○小橋安次郎。層流の場合と同様に, 乱流境界層の速度分布を一つの母数を含む曲線で表わし, この母数の変化を運動の方程式から定める計算方式を示す。

2-14. 40° くさびの臨界 Mach 数近傍の流れ (10) ○小黒晴夫, 武井道男。M-Z 干渉計で表面の速度分布を測定し, 玉田教授の理論と比較して述べる。境界層の発達にともない, 例へば M_* は理論より高く出る。

2-15. 遷音速風洞の実験について (15) 河田三治, ○村崎寿満。音速を過つて $M=1.4$ までの